

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業  
 (系統性のある支援研究事業)  
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (福岡県教育委員会)

1. テーマ

学校等において、発達障害児を含む障害のある子供の情報を適切に管理及び引継ぎを行うことにより、当該幼児・児童・生徒に対し『一貫した継続性のある支援』を提供する。

2. 問題意識・提案背景

本県は発達障害児等配慮を要する児童生徒に対し『一貫した継続性のある支援』をめざし、「発達障害児等教育継続支援事業」を実施している。本事業を通して、個別の教育支援計画を作成している学校が 93.3%へ向上した。しかし、前在籍校と後在籍校との間で、情報の引継ぎが十分ではなかったり、課題の共有化・指導の継続について協議する場が設定されていなかったりするなど支援の一貫性や継続性という視点においては課題がある。

このことに対し、本県では系統性のある支援を行うために、「ふくおか就学サポートノート」を配布し、情報の引継ぎを確実にを行うよう提案している。本事業においては、学校間で行う情報共有の在り方 (内容や方法) の検討を行い、その成果を広く県内に周知することで、全ての学校で一貫した継続性のある支援が提供されることを目指す。

3. 指定校について

【前在籍校】(小学校) ※代表して 2 校の内の 1 校を明記

指定校名：久山町立久原小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	59	2	59	2	54	2	49	2	62	2	59	2
特別支援学級	2	0	2	0	0	0	4	0	0	0	0	0
通級による指導 (対象者数)	2	0	1	0	2	0	2	0	2	0	1	0
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	16	1	4	0	1	0	0	2	26	

※特別支援学級：知的 1 情緒 1 肢体 1 ※通級による指導：情緒

【後在籍校 (小中)・前在籍校 (中高)】(中学校)

指定校名：久山町立久山中学校						
	第1学年		第2学年		第3学年	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
通常の学級	67	2	84	3	76	2
特別支援学級	2	0	2	0	4	0
通級による指導 (対象者数)	0	0	0	0	0	0

	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	12	1	9	0	1	0	1	1	27

※特別支援学：知的 1 情緒 1 ※通級による指導：未設置

【後在籍校】（高等学校）※代表して 2 校の内の 1 校を明記

指定校名：福岡県立福岡應誠高等学校										
学級数及び児童生徒数										
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
全日制	総合学科	280	7	274	7	271	7	0	0	
教職員数										
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	継続職員	キャリアウナ	その他	計
1	2	46	2	21	1	6	0	1	12	92

#### 4. 指定校における取組概要

<p>①目的・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害児等に対する指導を充実させるとともに、校種間の円滑な連携・協力を図る。</li> </ul> <p>②持続的な引継ぎシステムを指向した個別の教育支援計画等の作成方法等の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼保小の統一した引き継ぎシートを学校間連携コーディネーターとともに作成した。また、中高間においても、幼保小同様「引き継ぎシート」を作成し、発達障害の可能性のある生徒の情報を県立、私立高校ともに引き継ぐことができた。（久山町）</li> <li>抽出した学区内中学校 25 校を訪問し、次年度入学者に関する指導の在り方について引継ぎを依頼した。その中で統一した引継ぎを行うために「ふくおか就学サポートノート（引き継ぎシート）」による引継ぎを依頼した。（モデル高校）</li> </ul> <p>③進学前後における適切な引継ぎ内容及び時期等の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町内の幼保小中においては、それぞれの校種間連絡会（3 月末）において「引き継ぎシート」を活用し、円滑に引継ぎを行う予定である。（久山町）</li> <li>地域運営協議会を通して、モデル地域中高間については合格発表後にコーディネーターが引継ぎ資料を持参し各学校を訪問するとともに、入学後の支援について引継ぎを行うことで調整できた。（久山町、モデル高校）</li> </ul> <p>④児童生徒本人及び保護者の同意を得つつ、引継ぎを実施する体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各幼保小中では、作成したチェックシートをもとに発達障害の可能性のある幼児児童生徒を早期発見し、学級担任、コーディネーター等が随時保護者と面談を行った。面談では子供の発達の現状、今後の支援や進路について教育相談を行い保護者の合意を得つつ、円滑な引継ぎができる準備を行った。（久山町）</li> <li>高校では入学ガイダンス時に、本人及び保護者の不安を軽減し情報提供の有用性を周知する、啓発リーフレットを配布し学校職員による説明を行った。（モデル高校）</li> </ul>
--

#### 5. 主な成果

<p>①継続支援研究地域運営協議会について</p> <p>中高間の連携会議では、高校と中学校の管理職及び担当者が揃って会議を行い、生</p>
--

徒情報の引継ぎ時期、内容、手段等について学校間の調整を図るとともに、具体的な活動の方向性をつくることができた。また、町の連携会議では、各学校園の特別支援教育の推進状況を確認し、校種間でどの時期にどのような内容を引き継ぐかということが明確にできた。その上で、適切に情報を引き継ぐ為に、各学校等で何を準備していけばよいかということも整理できた。

## ②専門的な指導員（学校間連携コーディネーター）の配置について

高等学校配置のコーディネーターにおいては、中学校と高等学校との連携が重要になるため、それぞれの学校種と特別支援教育に造詣が深い経歴を持った者（特別支援学校管理職経験者）を配置し、対象高等学校で入学者の多い中学校を抽出し、中学校訪問（久山町以外の市町を含む）を行った。

このことにより、各中学校の状況が把握でき、特別な支援を必要とする生徒の入学が決定した場合は、できるだけ早期に本人及び保護者から申し出や「引き継ぎシート」（個別の移行支援計画）による引継ぎを依頼することができた。

久山町教育委員会においては、前特別支援学校校長1名と大学教授1名、臨床心理士4名をコーディネーターとして指名し役割を分担した。このことで、大学教授及び臨床心理士は児童生徒観察、教育相談、引き継ぎシートの内容検討、保護者に対する「ふくおか就学サポート」作成依頼及び作成支援、各学校・園教諭への具体的な対応指導、進学先高校との連携コーディネートを行うことができた。また、前特別支援学校校長は、児童生徒観察、教育相談、引き継ぎシートの内容検討、発達検査実施及びフィードバック、各担当保幼小中での具体的な対応指導等を行うことができた。

## 6. 今後の課題と対応

- 「ふくおか就学サポートノート」の内容検討と一層の活用促進
- 小中学校管理職研修会（校長研修会）における、情報引継ぎの必要性の周知
- 個別の教育支援計画と「ふくおか就学サポートノート」の関連の明確化
- 個別の教育支援計画（ふくおか就学サポートノート対応版）の積極的広報
- 個別の教育支援計画へ合理的配慮の明記
- 市町村教育委員会における情報引継ぎのシステム化  
（モデル町特別支援教育地域運営協議会の成果の周知）
- 中高特別支援教育コーディネーター研修会におけるモデル地域における成果の周知
- 学校間連携コーディネーターのこれまで以上の積極的活用と、学校間連携コーディネーターがいなくても情報の引継ぎができる体制の検討

## 7. 問い合わせ先

組織名：福岡県教育委員会

- (1) 担当部署 福岡県教育庁教育振興部義務教育課特別支援教育室
- (2) 所在地 福岡市博多東区東公園7番7号
- (3) 電話番号 092-643-3914
- (4) FAX 番号 092-643-3912
- (5) メールアドレス ushijima-r0890@pref.fukuoka.lg.jp